

## 今日の説教のポイント <使徒言行録 19 章 11～20 節>

### ①何を言いたいのかをよく考えなければならない箇所

話の内容は分かりやすい箇所です。すなわち、パウロは不思議な力で奇跡を起こせた → 祈禱師がその力を利用して悪霊を追い出そうとしたら、悪霊が祈禱師に飛びかかってひどい目にあわせた → 人々はそれを見て驚き、大勢の人が信仰に入った。このように不思議な面白い箇所ですが、一体、何が言いたいのでしょうか？ もし、「パウロが持った力は、祈禱師や魔術師の力よりもっとすごかったんだ」というようなことを考えて終わるなら、聖書読みの聖書知らず、ということになるのです。どういうことでしょうか？

### ②もっと正確に(18:26) → 聖霊とは(19:2) → 真の平安(19:11-20)

今日の箇所の前、18 章 24～28 節では、生半可な知識の信仰を持つのでなく、正確な信仰の知識を身につけることが大切だと語られています(18:26)。それに続いて、聖霊で一番大切なことはイエス様を信じることにあることを教えられました(19:4-5)。それに続くのが今日の箇所です。不思議な力は聖霊から、と考えるはならないのです。信仰に入った魔術師は不思議な力を生み出すための書物を焼き捨てました。彼らは真の平安を見出したからそうしたのです！ キリスト教信仰において、不思議な力は後に置いて行くものに過ぎないのです。

### ③パウロが大事だと語っていること。「私は弱い。しかし主が強い！」

今日の出来事を記している使徒言行録が全体で、パウロについて語っている一番大事なことは何でしょうか？ 復活の主キリストの意志に従い(9:16)、キリストの救いを証しするために苦難の人生を生きただけです(不思議な力でどんな苦難も打ち負かしたということではありません)。また、パウロが記した書簡の中でパウロ自身が強調していることは何でしょうか？ 自分は不思議な力を持っているということではなく、「誇る者は主を誇れ」(コリント一 1:31、二 10:18)、「私は弱い。しかし、私が弱い時にこそ主が強い」(コリント二 12:10) ということです！ 悪霊に飛びかかれた祈禱師たちは自分のために主の名を利用しようとしました。パウロは神様に用いていただくために自分を差し出しました。この違いに注目です。真の平安は主の下に生きるにあり！